

科目名	インターネット旅行情報検索						
科目名(英)	Internet Information retrieval						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	講師未定		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	トラベル科・2年						
授業概要	インターネットの基礎知識を学び、旅行情報を収集、整理、資料の作成の技術を習得する。また、仕事上で活かせるパソコンソフトの応用法も学習						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					インターネット用語を覚えることができる。	
		○				効率の良い情報検索方法の知識を習得できる。	
		○	○			パソコンソフトの応用法を習得できる。	
テキスト・教材 参考図書	各種関連資料プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ビジネスツールとしてのインターネットを知る					
	2	インターネット旅行情報士検定の概要と練習問題					
	3	検索エンジンの機能、コンテンツを知る					
	4	ブラウザの種類把握と違い					
	5	HTMLの基礎					
	6	HTML演習①定型のホームページを作成					
	7	HTML演習②自己紹介の内容を追加					
	8	ブーリアン検索の理解					
	9	インターネット使用時のトラブル事例					
	10	情報検索演習問題					
	11	情報の活用とソフトの応用①業務予定表を作成演習					
	12	情報の活用とソフトの応用②会場レイアウト作成演習					
	13	情報の活用とソフトの応用③広告等のロゴ作成演習					
	14	情報の活用とソフトの応用④広告用のアクセス地図を作成演習					
15	まとめ						
評価方法	(1)各演習での作成物にて評価。(2)出席・授業態度。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	演習作成物		◎	○			60%
	出席・授業態度				◎		40%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	インバウンド概論						
科目名(英)	Inbound Introduction						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	八尋隆志		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	トラベル科・2年						
授業概要	2020年(訪日外国人3000万人)東京オリンピックに向けて日本政府は急激に外国人旅行者(インバウンド)に力を入れている。今回このインバウンドツーリズムについて、なぜ外国人旅行者を政府は誘致するのか外国人旅行者が日本に来る事によって日本経済はどのように変わっていくのか、どのような国々の方が日本を訪問するのか、何を求めて来るのかなど、幅広く講義する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					専門業界用語の基礎知識を理解することができる。	
		◎				外国人から見た日本の魅力を説明することができる。	
		◎				今後拡大する訪日外国人旅行の展望について分析できる。	
テキスト・教材 参考図書	観光ビジネス実践ワークブック(地域インバウンド)、JATA資料及び業界誌						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	インバウンドとは(国内旅行・海外旅行の相違点)			新聞や外国人向け日本のパンフレットを見ておいてください。		
	2	外国人から見た日本の魅力(プラス・マイナス面)					
	3	実際の訪日外国人の行動					
	4	訪日外国人の日本への入国査証(VISA)					
	5	訪日外国人の国別の習慣や食事について					
	6	訪日外国人のショッピング					
	7	実務上でのトラブル事例					
	8	確認テスト					
	9	専門英単語用語の習得①(基本用語)					
	10	専門英単語用語の習得②(ケース別用語)					
	11	外国人との予約業務のやり取り					
	12	確認テスト					
	13	航空会社コード(2レター)の習得					
	14	空港コード(3レター)の習得					
15	確認テスト						
評価方法	(1)確認テスト(3回)を実施する。(2)評価試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	◎	○		○		50%
	期末試験	○	◎				50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	サービス介助						
科目名(英)	Service assistance						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	講師未定		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	トラベル科・2年						
授業概要	超高齢社会にある日本において公共機関、交通機関、商業施設、レジャー施設、観光施設などあらゆる接客・接遇の場面で全ての人が安心して暮らしていけるサービスが必要である。この授業では、自分のできごとや自分の役割を常に意識し、自発的に様々な人に関わり、円滑なコミュニケーションと快いサポートが提供できるようになるスキルの習得を目指す。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					超高齢社会の日本の現状を学び、高齢者体験を通して高齢者の心身の状況を説明できる。	
			○			肢体不自由者の状態を学び、サポートできるようになる。	
			○			肢体不自由者の状態に応じた車椅子介助ができるようになる。	
			○			視覚障がい者の状態と環境を学び、体験を通して介助のしかたを工夫して提供できるようになる。	
	○					聴覚障がい者の状態と環境を学び、相手に合った介助のしかたを工夫できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	超高齢社会の日本の現状			本日の授業内容を復習しておくこと		
	2	肢体不自由者 一 肢体不自由者とは			本日の授業内容を復習しておくこと		
	3	肢体不自由者 一 車椅子介助の操作演習			本日の授業内容を復習しておくこと		
	4	肢体不自由者 一 車椅子介助の操作演習			本日の授業内容を復習しておくこと		
	5	肢体不自由者 一 車椅子介助の操作演習			本日の授業内容を復習しておくこと		
	6	肢体不自由者 一 車椅子介助の実技試験			本日の授業内容を復習しておくこと		
	7	高齢者介助 一 高齢者体験			本日の授業内容を復習しておくこと		
	8	高齢者介助 一 高齢者の現状			本日の授業内容を復習しておくこと		
	9	高齢者介助 一 高齢者の心身の変化			本日の授業内容を復習しておくこと		
	10	視覚障がい者 一 視覚障がい者体験(目隠し歩行)			本日の授業内容を復習しておくこと		
	11	視覚障がい者 一 視覚障がい者介助演習			本日の授業内容を復習しておくこと		
	12	視覚障がい者 一 視覚障がい者の現状			本日の授業内容を復習しておくこと		
	13	聴覚障がい者 一 聴覚障がい者とは			本日の授業内容を復習しておくこと		
	14	聴覚障がい者 一 聴覚障がい者介助演習			本日の授業内容を復習しておくこと		
15	総まとめ・レポート課題						
評価方法	(1)授業の中で実技試験を実施する。(2)レポート、課題プリントの提出以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業中の実技試験			◎	◎		50%
	レポート提出	○	◎		◎		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	セールス実務											
科目名(英)	Sales practice											
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	講師未定					
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目						
対象学科・学年	トラベル科・2年											
授業概要	広く観光業界に従事するために必要な基本的知識を習得する。業種にかかわらずサービス業としての営業について学ぶ											
授業形式	講義:	○		演習:	△		実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○					営業の基礎知識を習得できる。						
		○				営業手法を理解することができる。						
	○					社会人としての基礎知識を習得できる。						
テキスト・教材 参考図書	トラベルジャーナル、インバウンド概論、新聞他											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	営業の基礎について①					授業で使用了資料の復習					
	2	営業の基礎について②					授業で使用了資料の復習					
	3	営業とは①(営業のテクニックについて)					授業で使用了資料の復習					
	4	営業とは②(営業のトーク術)					授業で使用了資料の復習					
	5	営業手法について(お客様の共通点探し)					授業で使用了資料の復習					
	6	ビジネスマナー(名刺交換や電話対応)					授業で使用了資料の復習					
	7	接待について(ターゲットリストの作成)					授業で使用了資料の復習					
	8	営業のモチベーションについて(成功者の声)					授業で使用了資料の復習					
	9	営業の種類について(営業職の理解)					授業で使用了資料の復習					
	10	営業方法の先進事例(新規参入など)					授業で使用了資料の復習					
	11	営業ミーティングの進め方					授業で使用了資料の復習					
	12	営業管理について(振替休日など)、社員教育について					授業で使用了資料の復習					
	13	社会人としての基礎知識①(冠婚葬祭、アフターファイブなど)					授業で使用了資料の復習					
	14	社会人としての基礎知識②(to doリスト、メモの活用など)					授業で使用了資料の復習					
15	総まとめ					授業で使用了資料の復習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業態度 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合					
	定期試験	○	◎				70%					
	授業態度				◎		30%					
履修上の注意	出席が10回に満たない場合には、定期試験の受験資格を与えない。											

科目名	ディスプレイ演習						
科目名(英)	Display exercise						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	若松昌枝		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	トラベル科・2年						
授業概要	商品を「見せる」「売る」ための戦略の1つとして、店舗のディスプレイがある。店舗見学などを通して、ディスプレイの在り方と役割について考えた上で、実際に作成する。季節やテーマに沿ったPOP作りにチャレンジしていく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				ディスプレイの役割について説明することができる。	
	○	○	○			テーマに沿ったPOPを作成することができる。	
	○	○	○			テーマや役割に応じた、飾り付けをすることができる。	
				○		興味を持って、積極的に、意欲的に取り組むことができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ディスプレイの在り方と役割			事前に自分の意見をまとめておくこと		
	2	店舗見学			見学のポイントなどを考えておくこと		
	3	店舗見学で学んだこと プレゼンテーション			発表の準備をしておくこと		
	4	ハロウィンと秋をテーマにしたPOP作り (構成と作成)			復習と振り返りをしておくこと		
	5	ハロウィンと秋をテーマにしたPOP作り (作成)			復習と振り返りをしておくこと		
	6	ハロウィンと秋をテーマにしたPOP作り (飾り付け)			復習と振り返りをしておくこと		
	7	ハロウィンと秋をテーマにしたPOP作り (プレゼンテーション)			発表の準備をしておくこと		
	8	クリスマスと冬をテーマにしたPOP作り (構成と作成)			復習と振り返りをしておくこと		
	9	クリスマスと冬をテーマにしたPOP作り (作成)			復習と振り返りをしておくこと		
	10	クリスマスと冬をテーマにしたPOP作り (プレゼンテーション)			発表の準備をしておくこと		
	11	旅行パンフレットのPOP作成 (グループワーク テーマ決めと役割分担)			復習と振り返りをしておくこと		
	12	旅行パンフレットのPOP作成 (グループワーク 構成と作成)			復習と振り返りをしておくこと		
	13	旅行パンフレットのPOP作成 (グループワーク 作成)			復習と振り返りをしておくこと		
	14	旅行パンフレットのPOP作成 (グループワーク 作成と飾り付け)			復習と振り返りをしておくこと		
15	旅行パンフレットのPOP作成 (グループワーク プレゼンテーション)			発表の準備をしておくこと			
評価方法	(1)POP作品 (2)プレゼンテーション (3)積極的に取り組む姿勢 以上を下記の割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	POP作品	○	○	○			20%
	プレゼンテーション	○	○				30%
	態度、意欲				◎		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	一般教養ⅡB						
科目名(英)	General education ⅡB						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	瀧口恵子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	トラベル科・2年						
授業概要	社会人基礎力養成として、2年間の一般教養の授業の総まとめとして、7回＋試験を実施						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					主な国際機関について、その活動内容を理解し説明することが出来る	
	○					漢字検定2級程度の漢字の読み書きが出来る	
	○					英検準2級程度の問題に解答することが出来る	
	○					四則演算と基礎的なSPI問題に正確に解答することが出来る	
テキスト・教材 参考図書	プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	科目概要説明、第1回(国際機関とその活動、世界遺産)			次回学習部分に目を通しておくこと		
	2	第2回(英文空所補充、英日ことわざ)			テキストの該当部分の復習をしておくこと		
	3	第3回(英文空所補充、SPI問題)			テキストの該当部分の復習をしておくこと		
	4	第4回(漢字の知識、名数、歴史)			テキストの該当部分の復習をしておくこと		
	5	第4回(英文空所補充、SPI問題)			テキストの該当部分の復習をしておくこと		
	6	第5回(漢字の知識、読解問題、経済)			テキストの該当部分の復習をしておくこと		
	7	第6回(漢字の知識、SPI問題、英文和訳)			テキストの該当部分の復習をしておくこと		
	8	試験					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)定期試験 (2)宿題や課題 (3)出席状況と授業中の態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	出席状況				◎		10%
	宿題・レポート	○			○		10%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、試験受験資格なしとする						

科目名	海外観光地理ⅡB						
科目名(英)	Overseas tourism geography ⅡB						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	講師未定		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	トラベル科・2年						
授業概要	旅行業界および旅行関連業界で働くうえで、海外の観光地理知識は必須である。 この授業では、どのようなものが観光資源となり得るのかを理解し、日本からの渡航者が多いアジア主要国の観光地理についての知識を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					アジア主要国およびそれらの首都の名称と位置が把握できている。	
	○					アジア主要国の使用言語や使用通貨など国の概要を説明することができる。	
		○				世界遺産や料理、伝統行事など、観光資源になり得るものを説明することができる。	
	○					アジア主要国の観光資源を1か国につき15以上挙げることができる。	
				○		各国の文化や歴史に興味を持ち、理解しようと努めることができる。	
テキスト・教材 参考図書	・JTB総合研究所「海外観光資源」 ・帝国書院「旅に出たくなる地図 世界」など						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	アジア圏の国について			授業で出てきた世界遺産を地図帳で確認し、画像検索してイメージをつかむこと。		
	2	韓国の観光資源① — 国の概要、韓国南部			授業で出てきた都市・町を地図帳で確認し、配布プリントの白地図に書き入れること。		
	3	韓国の観光資源② — 韓国北部			授業で出てきた都市・町を地図帳で確認し、配布プリントの白地図に書き入れること。		
	4	台湾の観光資源 — 国の概要、主要観光地			授業で出てきた都市・町を地図帳で確認し、配布プリントの白地図に書き入れること。		
	5	中国の観光資源① — 国の基礎データ			授業で出てきた都市・町を地図帳で確認し、配布プリントの白地図に書き入れること。		
	6	中国の観光資源② — 自然景観			授業で出てきた都市・町を地図帳で確認し、配布プリントの白地図に書き入れること。		
	7	中国の観光資源③ — 北京周辺の観光地			授業で出てきた都市・町を地図帳で確認し、配布プリントの白地図に書き入れること。		
	8	中国の観光資源④ — 上海周辺の観光地			授業で出てきた都市・町を地図帳で確認し、配布プリントの白地図に書き入れること。		
	9	香港、マカオ地区の観光資源			授業で出てきた都市・町を地図帳で確認し、配布プリントの白地図に書き入れること。		
	10	フィリピンの観光資源 — 都市、自然景観、観光地、料理			授業で出てきた都市・町を地図帳で確認し、配布プリントの白地図に書き入れること。		
	11	ベトナムの観光資源 — 都市、自然景観、観光地、料理			授業で出てきた都市・町を地図帳で確認し、配布プリントの白地図に書き入れること。		
	12	インドネシアの観光資源 — 都市、自然景観、観光地、料理			授業で出てきた都市・町を地図帳で確認し、配布プリントの白地図に書き入れること。		
	13	シンガポールの観光資源 — 自然景観、観光地、料理			授業で出てきた都市・町を地図帳で確認し、配布プリントの白地図に書き入れること。		
	14	タイの観光資源 — 主な都市、自然景観、観光地、料理			ヨーロッパがロケ地となった映画やTV番組などを鑑賞してみる。		
15	アジア主要各国の基礎知識と観光資源のまとめ			前期期末試験に向けて、学習範囲の復習をしておくこと。			
評価方法	(1)授業内で配布する国別記入式プリントを定期的に回収し評価する。(2)課題提出を1回課す。 (3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	授業プリント	◎	○		◎		25%
	課題	◎	◎				25%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	観光実地研究						
科目名(英)	Sightseeing Practical research						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	講師未定		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	トラベル科・2年						
授業概要	日帰り研修旅行の行程、見積書を作成し、プレゼンテーションを実施。プラン決定後、取扱旅行業者と打ち合わせをし、研修旅行を実施。旅行業界の一連の業務流れを学ぶ						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				日帰り圏内の観光資源を覚えることができる。	
		○		○		日帰り旅行の行程表を作成することができる。	
		○		○		行程表内容に沿った旅行見積書を作成することができる。	
		○		○		自分のプランを説明する(売り込む)ことができる。	
テキスト・教材 参考図書	各種関連資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	九州、山口の日帰り旅行研究、情報共有					
	2	行程表作成					
	3	見積書の作成					
	4	プレゼンテーション資料作成					
	5	プレゼンテーション及び実施プランの決定					
	6	取扱旅行業者との打ち合わせ					
	7	実地研究旅行の実施					
	8	実地研究旅行の検証					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)行程表の内容評価。(2)見積書の内容評価。(3)プレゼンテーション内容評価 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	行程表内容		◎		○		40%
	見積書内容		◎		○		40%
	プレゼンテーション		○		◎		20%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位を与えない。						



科目名	業界ビジネス英語B						
科目名(英)	Travel Business English B						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	講師未定		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	トラベル科・2年						
授業概要	海外添乗業務時における実践的な英会話を学ぶことにより、旅行業界で使用する英語に慣れる。簡単な英文が読め、旅行業界で役立つ情報の収集力、表現力を習得する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					旅行先での役立つ英語表現ができる。	
		○				海外旅行でケースに応じた英会話ができる。	
		○				海外で目にする簡単な英文から情報を読み取ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	ツアーコンダクターの英語 JTB総合研究所						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	基本表現①あいさつ、お礼、お詫び、聞き返し				本日学んだ表現を必ず復習	
	2	基本表現②依頼、要求、質問、許可を求める				本日学んだ表現を必ず復習	
	3	空港にて①搭乗、入国審査、手荷物引き取り				本日学んだ表現を必ず復習	
	4	空港にて②税関、両替、空港からの移動				本日学んだ表現を必ず復習	
	5	ホテルにて①予約、チェックイン、施設利用				本日学んだ表現を必ず復習	
	6	ホテルにて②サービス、チェックアウト、トラブル				本日学んだ表現を必ず復習	
	7	レストランにて①予約、食事、トラブル				本日学んだ表現を必ず復習	
	8	レストランにて②支払い、ファーストフード、バー				本日学んだ表現を必ず復習	
	9	ショッピングにて①店を探す、売り場を探す、トラブル				本日学んだ表現を必ず復習	
	10	ショッピングにて②品選び(服、バック、靴、雑貨、化粧品他)				本日学んだ表現を必ず復習	
	11	交通(タクシー、鉄道、地下鉄、バス、レンタカー他)				本日学んだ表現を必ず復習	
	12	道案内(道を尋ねる)、交通関係トラブル				本日学んだ表現を必ず復習	
	13	電話、郵便				本日学んだ表現を必ず復習	
	14	その他トラブル(病気、ケガ、盗難、紛失)				本日学んだ表現を必ず復習	
15	総復習				後期試験の準備		
評価方法	(1)小テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)出席・授業態度。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					80%
	小テスト	○					10%
	出席・授業態度				○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	国内プランニング実務						
科目名(英)	Domestic Planning practice						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	講師未定		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	トラベル科・2年						
授業概要	ツアープランナーの業務内容を理解し、国内旅行の旅行パンフレットの作成の際に必要なプランニングの知識を身につける。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					プランニングの基礎知識を身につけることができる。	
	○					広告表示義務を理解することができる。	
	○	○				行程表の表示項目を理解することができる。	
	○	○				見積書の表示項目と内容を理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各種関連資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ツアープランナーとは					
	2	プランニングの考え方					
	3	旅行業法で定められている広告の表示についての理解					
	4	マーケティングの基礎知識					
	5	旅行商品の特典について内容と分析					
	6	行程表の内容理解演習					
	7	見積書の内容理解演習					
	8	評価試験					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)評価試験を実施。(2)演習取組姿勢 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	評価試験	◎	○				50%
	演習取組姿勢		○		◎		50%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	国内商品分析						
科目名(英)	Domestic Planning Articles Analysis						
単位数	2単位	時間数	30分時間	担当者	講師未定		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	トラベル科・2年						
授業概要	旅行会社の販売上の基本的なツールである国内企画商品パンフレットの内容を理解し、正確に顧客に伝えることを学ぶ。企画商品の販売上の注意点も理解できるように学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				国内企画商品の約款上の注意点を理解し 顧客に案内できる。	
	○	○				国内企画商品パンフレット注目点、特徴、セールスポイントを理解できる。	
	○	○				国内企画商品の旅行代金の算出ができる。	
テキスト・教材 参考図書	講師作成レジメ、各旅行会社の海外企画商品パンフレット						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	国内商品(企画)とは					
	2	東京方面企画商品(航空機利用)①東京ビジネスパック				事前に課題のパンフレットを読んでおくこと	
	3	東京方面企画商品(航空機利用)②演習問題				事前に課題のパンフレットを読んでおくこと	
	4	関西方面企画商品(JR利用)①大阪・京都・神戸ビジネスプラン				事前に課題のパンフレットを読んでおくこと	
	5	関西方面企画商品(JR利用)②旅行代金算出演習				事前に課題のパンフレットを読んでおくこと	
	6	確認テスト(IIT航空機利用商品、JR利用商品)				今までの授業の復習、主に旅行代金算出演習	
	7	沖縄方面企画商品①最新観光事情				事前に課題のパンフレットを読んでおくこと	
	8	沖縄方面企画商品②旅行代金算出演習				事前に課題のパンフレットを読んでおくこと	
	9	北海道商品①(スキー関係)商品の特色、セールスポイント				事前に課題のパンフレットを読んでおくこと	
	10	北海道商品②(スキー関係)旅行代金算出演習				事前に課題のパンフレットを読んでおくこと	
	11	関東方面団体型商品①(個人型商品と相違点、特色)				事前に課題のパンフレットを読んでおくこと	
	12	関東方面団体型商品②(セールスポイント・販売上の注意点)				事前に課題のパンフレットを読んでおくこと	
	13	メディア掲載国内商品①(新聞広告商品の特色)				事前に課題のパンフレットを読んでおくこと	
	14	メディア掲載国内商品②(新聞広告掲載国内商品の造成等)				事前に課題のパンフレットを読んでおくこと	
15	評価試験				今までの授業の復習、主に旅行代金算出演習		
評価方法	(1)確認テストを1回実施。(2)評価試験を実施。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	◎	○		○		30%
	評価試験	○	◎				70%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	実用英語対策Ⅱ						
科目名(英)	Practical English II						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	講師未定		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	トラベル科・2年						
授業概要	実用英語準2級・2級合格に必要な英語の基礎を学ぶ。基本的な文法の知識の確認を行うと共に、比較的簡単な長文の読解を目指す。音読練習も加えたリスニング練習を反復的に行うことで、資格試験のみならず、日常会話に必要な力も伸ばしていく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					下に記した文法事項について説明ができる。	
	○					簡単な長文を読んで概要を掴むことができる。	
	○					比較的短い英作文で自分の意見を述べるができる。	
	○					比較的短い対話文を聞いて概要を掴むことができる。	
○					比較的簡単なビジネス向けの単語を理解することができる。		
テキスト・教材 参考図書	実用英語過去問題						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	レベル判定テスト				単語テストに向け該当箇所を覚える	
	2	英検 語句問題・対話文問題				単語テストに向け該当箇所を覚える	
	3	英検 語句問題・対話文問題				単語テストに向け該当箇所を覚える	
	4	英検 イディオム問題・長文問題				単語テストに向け該当箇所を覚える	
	5	英検 イディオム問題・長文問題				単語テストに向け該当箇所を覚える	
	6	英検 リスニング問題・英作文問題				単語テストに向け該当箇所を覚える	
	7	英検 リスニング問題・英作文問題				単語テストに向け該当箇所を覚える	
	8	過去問題演習				不正解だった問題を解き直す	
	9	過去問題演習				不正解だった問題を解き直す	
	10	過去問題演習				不正解だった問題を解き直す	
	11	過去問題演習				不正解だった問題を解き直す	
	12	過去問題演習				不正解だった問題を解き直す	
	13	過去問題演習				不正解だった問題を解き直す	
	14	過去問題演習				不正解だった問題を解き直す	
15	評価試験						
評価方法	(1)復習テストを実施する。(2)単語テストを実施する。(3)評価試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					50%
	復習テスト	◎					40%
	単語テスト	◎					10%
履修上の注意	希望者を対象に実施する。 出席が10回に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	社会教養ⅡB						
科目名(英)	Social Study ⅡB						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	若松昌枝		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	トラベル科・2年						
授業概要	社会人としての基礎知識や自己管理能力の必要性を考える機会とする。ストレス管理や体力維持、集団行動力を、スポーツや実体験を通して学ぶ。また、文化的体験や産業観光などを通して、福岡の観光資源の分析を行い、業界で働く上での知識の向上を図る。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		社会人として必要な自己管理能力を向上することができる。	
				○		集団行動を通して、リーダーシップ力や協調性の理解を深めることができる。	
			○	○		スポーツを通して、ストレス管理や体力維持の必要性を体感する。	
	○	○				産業観光や文化的体験を通して、福岡の観光資源を学び、説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	特になし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業概要、スケジュール説明、目標設定					
	2	集団での役割 ～脳トレやプレゼンテーションゲーム～					
	3	社会人としての基礎知識			復習をしておくこと		
	4	ストレス管理と体力向上～体を動かさずゲーム～					
	5	ビジネスマナークイズ			ビジネス実務等で学んだことを復習してから臨むこと		
	6	社会科見学～防災センター～					
	7	福岡の観光資源～太宰府天満宮周辺散策とリサーチ～			リサーチ内容をまとめておくこと		
	8	福岡の観光資源～太宰府天満宮周辺散策とリサーチ～			リサーチ内容をまとめておくこと		
	9	産業観光～アサヒビール工場見学～			リサーチ内容をまとめておくこと		
	10	プレゼンテーション～福岡の観光資源～			プレゼンテーションの準備をしておくこと		
	11	ストレス管理と体力向上～球技～					
	12	ストレス管理と体力向上～球技～					
	13	アイススケート体験					
	14	アイススケート体験					
15	社会人研修						
評価方法	出席状況(90%以上) プレゼンテーション(発言も含む) 態度意欲						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席率				○		80%
	プレゼンテーション	○	○		○		10%
	態度・意欲				○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	世界遺産地理Ⅱ						
科目名(英)	World Heritage Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	若松 昌枝		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	トラベル科2年						
授業概要	1年次に学んだ知識を元に、海外への世界遺産へと目を向ける。主に世界遺産の多い中国やイタリア、日本人観光客に人気のある遺産を中心に、日本の世界遺産との共通点や相違点を知り、世界遺産の価値についての理解を深める。また、深く学んだことで知り得る観光地の魅力を再発見する機会とする。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				アジアの世界遺産を3つ挙げ、説明することができる。	
	○	○				ヨーロッパの世界遺産を3つ挙げ、説明することができる。	
			○	○		興味深い世界遺産についてリサーチを行い、その魅力についてのプレゼンテーションを行うことができる。	
				○		世界の自然や文化の価値についての理解を深め、旅の魅力の発信者となることことができる。	
テキスト・教材 参考図書	きほんを学ぶ世界遺産100 世界遺産検定3級公式テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	世界遺産の基礎知識の復習				テキストの該当箇所を読み、復習しておくこと	
	2	復習と確認～日本の世界遺産～				テキストの該当箇所を読み、復習しておくこと	
	3	日本の世界遺産～今年度の登録と今後の推薦物件について～				今年度の動きを振り返っておくこと	
	4	中国の世界遺産（万里の長城、始皇帝陵と兵馬俑坑、マカオの歴史地区）				テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと	
	5	東南アジアの世界遺産（パリの文化的景観、アンコールの遺跡群）				テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと	
	6	東南アジアの世界遺産（ボロブドゥールの仏教寺院群、アユタヤの歴史地区）				テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと	
	7	世界の自然遺産（ハワイ火山、グレート・バリア・リーフ）				テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと	
	8	世界の自然遺産（ンゴロンゴロ自然保護区、ヴィルンガ国立公園）				テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと	
	9	ヨーロッパの世界遺産（イタリア、ヴァチカン市国の世界遺産）				テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと	
	10	ヨーロッパの世界遺産（フランスの世界遺産）				テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと	
	11	ヨーロッパの世界遺産（オーストリア、ドイツ）				テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと	
	12	負の遺産と危機遺産				テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと	
	13	プレゼンテーション準備				プレゼンテーションの内容を考えておくこと	
	14	プレゼンテーション準備				プレゼンテーション本番に向けての準備をしておくこと	
15	プレゼンテーション本番						
評価方法	(1)小テストを3回実施 (2)プレゼンテーション (3)レポートの提出 (4)態度・意欲						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	
	確認テスト	○	○				
	プレゼンテーション	○	○		○		
	レポート提出	○	○				
	態度・意欲				○		
評価割合							
10%							
40%							
40%							
10%							
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	旅行業実務						
科目名(英)	Travel business practice						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	講師未定
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	トラベル科・2年						
授業概要	旅行業界でのコンプライアンスの知識、現場に必要な最低限の観光地、物産品、郷土料理などの内容を就業前に再学習する。						
授業形式	講義:	○		演習:		実習:	
						実技:	
						※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					旅行業界のCS、コンプライアンス知識を理解することができる。	
	○	○				国内・海外の観光資源を理解することができる。	
	○	○				旅行業務の基礎知識を理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	トラベルジャーナル、インバウンド概論、新聞他						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	旅行実務の概要・ウォーミングアップ				授業で使用了資料の復習	
	2	旅行地理 (北海道)				授業で使用了資料の復習	
	3	旅行地理 (東北)				授業で使用了資料の復習	
	4	旅行地理 (関東・甲信越)				授業で使用了資料の復習	
	5	旅行地理 (伊豆・箱根)				授業で使用了資料の復習	
	6	旅行地理 (中部・関西)				授業で使用了資料の復習	
	7	旅行地理 (中国・四国)				授業で使用了資料の復習	
	8	旅行地理 (九州)				授業で使用了資料の復習	
	9	国内旅行業務の基礎知識(JR・航空)				授業で使用了資料の復習	
	10	国内旅行業務の基礎知識(宿泊・パッケージツアー)				授業で使用了資料の復習	
	11	海外主要国の観光地 (アメリカ・カナダ)				授業で使用了資料の復習	
	12	海外主要国の観光地 (ハワイ・中米)				授業で使用了資料の復習	
	13	海外主要国の観光地 (オセアニア・南米)				授業で使用了資料の復習	
	14	CS・コンプライアンスの意識				授業で使用了資料の復習	
	15	総まとめ				授業で使用了資料の復習	
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。(2) 授業態度 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				70%
	授業態度				◎		30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合には、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合旅行業務取扱管理者対策補講Ⅱ						
科目名(英)	National examination Supplementary lecture Ⅱ						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	若松昌枝/大岡牧代		
実施年度	2019	実施時期	前期・後期前半	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	トラベル科・2年						
授業概要	総合旅行業務取扱管理者試験の対策として、国際航空運賃、海外実務科目の補講を実施。国家資格の取得を目指す。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					国際航空運賃の内容を理解し、関連問題を解くことができる。	
	○					出入国実務の内容を理解し、関連問題を解くことができる。	
	○					海外旅行実務の内容を理解し、関連問題を解くことができる。	
	○					模擬試験を通して設問を理解し、内容を説明することができる。	
			○			補講にて学習した各科目内容を教えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	国内・総合旅行業務取扱管理者速習レッスン、模擬試験、各資料プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	科目学習－国際航空運賃分野の学習と当該問題の理解				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	科目学習－出入国実務分野の学習と当該問題の理解				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	科目学習－海外旅行実務分野の学習と当該問題の理解				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	演習問題(1回目)－過去問題の実施と解答解説				各科目を復習しておくこと	
	5	演習問題(2回目)－過去問題の実施と解答解説				前回過去問題を復習しておくこと	
	6	模擬試験(1回目)の実施と解答解説				各科目、過去問題を復習しておくこと	
	7	模擬試験(2回目)の実施と解答解説				前回模擬試験内容を復習しておくこと	
	8	模擬試験(3回目)の実施と解答解説				前回模擬試験内容を復習しておくこと	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)各科目の確認テスト、過去問題を実施。理解度確認と評価を行う。 (2)模擬試験を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	各内容理解	○	◎				25%
	模擬試験		◎		○		50%
補講への取組み				◎		25%	
履修上の注意	対策補講は希望者を対象に実施。						